

# か 広報かるいざわ

お知らせ

平成23年10月20日発行

## 落ち葉の季節になりました

### 「落ち葉等の処理について」お知らせします

農林水産省では、高濃度の放射性物質を含む腐葉土・剪定枝堆肥がホームセンター等で販売されていたことから、「長野県も含む17都県においては、腐葉土・剪定枝堆肥の新たな生産・出荷及び施用を出来る限り控えるように指導する。なお、※やむを得ない事情により、生産・出荷または施用が避けられない場合には、検査方法等について、当局（農林水産省 消費・安全局）まで相談する。」と要請しています。

（※やむを得ない事情 業者または農家等が、自分で検査を実施してでも生産・出荷または施用を行いたいという意思がある場合を想定）

このような状況のなか、毎年行っている落ち葉の収集を見合わせている業者も出ていますが、元放射線医学研究所研究総務官の稲葉次郎氏に伺ったところ、「放射能による人体への影響に関しては、落ち葉の放射性物質濃度（ベクレル/キログラム）ではなく、その場の空間線量率（時間当たりの放射線量：シーベルト/時）を測定する必要があり、空間線量率とその場にいる時間を勘案し、落ち葉の取り扱いを決めることになる」との見解から、町内各所における落葉の放射能濃度を測定し、人体への影響度（実効線量率）に換算するとともに空間線量率を測定しました。

表中（裏面）の実効線量率は、実測の空間線量率以下あるいは同等となっており、その場所に常時いると考えるのは合理的でないため、落ち葉などの収集清掃をすることによる放射能の影響は低いといえます。また、落ち葉に関する国等の基準は特に示されていないので、今までと同じように処理できます。

しかしながら、農林水産省では、腐葉土の製品としての暫定基準値（400ベクレル）を示しており、堆肥としての使用は出来る限り控えるよう指導しています。

## 落ち葉の放射性物質濃度および周辺空間線量測定結果

測定場所	ヨウ素131 (Bq/kg)	セシウム134 (Bq/kg)	セシウム137 (Bq/kg)	実効線量率 (BqをSv換算)	空間線量率 (実測測定値)
千ヶ滝西区别荘地	検出せず	760	890	0.045 μSv/h	0.070 μSv/h
側溝の落葉溜まり	検出せず	600	720	0.036 μSv/h	
長倉公園	検出せず	240	280	0.014 μSv/h	0.050 μSv/h
側溝の落葉溜まり	検出せず	1000	1200	0.060 μSv/h	
諏訪の森公園	検出せず	950	1100	0.056 μSv/h	0.070 μSv/h
側溝の落葉溜まり	検出せず	870	1000	0.051 μSv/h	
杉瓜公民館	検出せず	420	480	0.024 μSv/h	0.070 μSv/h
側溝の落葉溜まり	検出せず	1400	1800	0.087 μSv/h	
馬取公民館	検出せず	200	230	0.009 μSv/h	0.065 μSv/h
側溝の落葉溜まり	検出せず	670	800	0.040 μSv/h	

測定方法：γ線スペクトロメータ（ゲルマニウム半導体検出器）法（H.23.9.30採取分・10.11結果報告書受理）

※サンプルは、広い範囲より熊手等により収集しているため、昨年の落ち葉や土等も含まれています。

※実測した空間放射線量率の数値には、自然放射線量も含まれていますが、過去の測定データがないため、もともとの自然放射線量はわかりません。（日本の平均値は毎時0.16マイクロシーベルトと言われており、その内半分が空気中、2割が大地からとなるため、概ね毎時0.1マイクロシーベルトまでは自然放射線と捉えることができます）

※実効線量換算値については、深さ1cmの土壌換算での放射性物質濃度として換算しています。

（計算例：1,000Bq/kg×13=13k Bq/m<sup>2</sup>× 2.1×10<sup>-6</sup> =0.0273 μSv）

### 【問い合わせ】

○検査方法等について 農林水産省 消費・安全局 農産安全管理課  
☎03-3502-5968（ダイヤルイン）

○堆肥等について 観光経済課 農林係 ☎45-8572

○ごみ処理等について 生活環境課 衛生係 ☎45-8556